

# 研究者と話そう

■時間：14:30～15:30(予定)

■参加費：無料(ただし、観覧料が必要)

国立民族学博物館(みんぱく)の研究者が来館された皆様の前に登場します!「研究について」「調査している地域(国)の最新情報」「展示資料について」などなど、話題や内容は千差万別!どんどん質問もおよせください。展示場でお待ちしております。



取材の警護をしてくれた  
フィリピン国家警察の兵士たち

・実施日・話者・話題・場所 ※都合により、予定を変更することがあります。

7月6日(日)

**寺田 吉孝** (民族文化研究部准教授)  
フィリピン・ゴング音楽の現状  
於:常設展示場入口

7月13日(日)

**野林 厚志** (文化資源研究センター准教授)  
博物館と台湾原住民  
於:中国地域の文化展示 他

7月20日(日)

**齋藤 晃** (先端人類科学研究部准教授)  
ラテンアメリカを踏査する  
一写真で辿る黎明期の考古学・民族学調査  
於:企画展「ラテンアメリカを踏査する」

7月27日(日)

**菊澤 律子** (先端人類科学研究部准教授)  
数を数える・お金を数える  
於:企画展「いろんな『おかね』で世界がみえる」

## 編集後記

『月刊みんぱく』の「外国人として生きる」を担当して、もう2年経った。このあいた、さまざまな分野で活動する外国出身者の生き方を個人名や写真とともに紹介してきた。本来この企画は、日本で生活する外国人(移民)の元気で積極的な生き方を紹介することにあった。街角や商店では毎日のように目にし、マスコミでもしばしば取り上げられるようになった外国人だが、そこで描かれる苦勞、差別、違法など問題をかかえた対象としての暗く受動的なイメージはぬぐいがたい。たしかに日本での生活には多くの困難をとまうのが普通だが、彼らがそれぞれ個人として目標や生き甲斐をもち、人生を楽しもうとする姿はみおとされがちであった。

そして今年の春からは、日本在住の移民、外国人の二世を取り上げている。彼らのなかには、社会への一員として積極的に働きかけることで、一世が経験した苦勞や限界を克服し、場合によってはそれらを自分の可能性に転化しようとするものも少なくない。彼らの姿が、日本人の外国人イメージを再考するきっかけになり、さらに日本人や外国人、双方の生きかたに参考になればと思う。今後もどのような若者が登場するか楽しみである。(庄司 博史)



### 交通案内

- 大阪・千里万博記念公園内
- 大阪モノレールで「公園東口駅」・「万博記念公園駅」下車徒歩約15分。
- 阪急茨木市駅・JR茨木駅・北大阪急行千里中央駅からバスで「日本庭園前」下車徒歩約15分(茨木方面から1時間1本程度、日本庭園前駐車場乗り入れのバスがあります。詳しくは阪急バスにお問い合わせください)。
- 自家用車の場合は、万博記念公園「日本庭園前駐車場」(有料)から徒歩約5分。
- タクシーは、万博記念公園「日本庭園前駐車場」まで乗り入れられます。



次号予告/みんぱくインタビュー  
人文地理学者として  
2つのフィールド

2008年7月号 第32巻第7号通巻第370号  
2008年7月1日発行

編集・発行 人間文化研究機構 国立民族学博物館  
〒565-8511 大阪府吹田市千里万博公園10-1  
電話06-6876-2151

発行人 西尾哲夫

編集委員 久保正敏(編集長) 佐々木史郎  
庄司博史 中牧弘允 三尾 稔  
山中由里子

協力 財団法人 千里文化財団

制作 株式会社博報堂

製版・印刷 アサヒ精版印刷株式会社

●本誌についてのお問い合わせは国立民族学博物館企画課まで  
●本誌掲載記事の無断転載を禁じます